

平成30年度 第1回小樽市総合教育会議

開催日時

平成30年11月22日(木) 16:00~17:20

開催場所

小樽市役所別館4階第3委員会室

出席者

(構成員)	小樽市	市長	迫 俊 哉
	小樽市教育委員会	教育長 委員 委員 委員	林 秀 樹 笹 谷 純 代 小 澤 倭 文 夫 荒 田 純 司 常 見 幸 司
(事務局等)	小樽市		小樽市教育委員会
	総務部長 総務部企画政策室長 企画政策室主幹 企画政策室主査	日榮 聡 西島 圭二 布 聡哉 亀田 直澄	教育部長 飯田 敬 教育部次長 須藤 慶子 学校教育支援室長 中島 正人 適正配置担当次長 石崎 政嗣 施設管理課長 伊藤 雅浩 教育総務課長 笹山 貴史 教育総務課総務係長 安藤 英明

※傍聴者数 5名

議題：「教育環境の整備について」 (1) 子供たちの安全・安心について
(2) 学習環境の向上について
(3) 教員の負担軽減について

— 会議内容 —

総務部長	<p>それでは、皆様おそろいでございますので、ただ今から平成30年度第1回小樽市総合教育会議を開会いたします。まず、現在のところ、傍聴の方が5名おられますので、お知らせいたします。それでは、本日の会議を招集いたしました市長の迫より一言御挨拶申し上げます。</p> <p>市長、よろしく願いいたします。</p>
市長	<p>教育委員の皆様、本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。今日は先ほど教育委員会が開催されたということですが、お疲れのところお集まりいただきました。</p> <p>思い起こしますと、この総合教育会議につきましては、3年前に教育委員会の制度が改められまして、私が教育部長をしているときに小樽市として初めて一回目の総合教育会議を開催させていただきました。そのときには教育大綱についていろいろと皆様には御審議をいただいた記憶がありますけども、この間、いろいろな教育に関わる問題が多様化しておりますし、複雑化もしております。こういった問題について教育委員の皆様としっかりと意見の交換をさせ</p>

市 長	<p>ていただきながら、より良い、子供たちのための教育環境の整備に向けまして連携を深め、協力関係を築いていきたいと考えております。私の公約に関わる案件も含めまして意見交換をさせていただきたい項目をいくつか用意させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
総務部長	<p>それでは早速ですが、小樽市総合教育会議の運営に関する要綱第3条の規定に基づきまして、以降の進行を市長にお願いしたいと思っております。</p> <p>なお、全体の会議時間につきましては、1時間半程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、市長、よろしくお願いいたします。</p>
市 長	<p>それでは、本日の議題は「教育環境の整備について」ということで、一つには「子どもたちの安全・安心について」ということで、通学路の安全確保や校舎の耐震化の促進について、を考えているところでございます。二つ目については「学習環境の向上について」、それから今、先生方の働き方改革が報道などで取り上げられておりますとおり、この問題について社会的な問題になっているわけでありまして。市の実状はどうなのかということについても御意見をいただければと考えております。</p> <p>初めに「子どもたちの安全・安心について」から進めたいと思っております。</p> <p>私といたしましては子供たちだけではなく、市民の皆様全ての方々が安全で安心に暮らすということを公約の一つに掲げているところですが、特に教育面で申し上げますと、子供たちの通学路の安全の確保、これは特に学校の適正配置との関係もありまして、通学距離がより長くなっていることとも関係がありますけれども、大変重要なことと考えているところでございます。</p> <p>特に最近では、地震によるブロック塀の倒壊ということで通学中の児童、生徒が巻き込まれるといった災害が発生しております。こういった問題についてもしっかりと考えていかなければいけませんし、対応していかなければならないだろうと思っております。</p> <p>それから、近年の除排雪状況の悪化を受けまして、地域の方々や保護者の皆様から児童生徒の通学路の環境の改善を強く望まれているということで、私どもとしても耳にしているところでございます。</p> <p>こうした状況の中で、全国的に「通学路の安全プログラム」という方針が策定されていると聞いておりますので、小樽市における「通学路の安全プログラム」がどのような策定状況なのか御報告いただければと思いますが、よろしくお願いいたします。</p>
学校教育支援室長	<p>「通学路の安全プログラム」について御報告させていただきます。</p>

<p>学校教育支援室長</p>	<p>小樽市においては、本年9月に「通学路安全推進会議」を開催し、その中で「小樽市通学路安全プログラム」を策定しております。</p> <p>メンバーとしては、市長部局からは建設部、生活環境部の担当課に加え、小樽警察署の交通安全、防犯の担当課、そして、国道、道道の管理担当の国、道の所管からも参加をいただいております。主な取組は、通学路の合同点検を行い、安全対策を要する箇所の抽出とそれに対する対策の検討を行うこととなっております。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは私の方から特に除排雪の話を。市長に就任して以降、市民の皆様から非常に要望が多かった除排雪の改善点についてお話させていただきます。</p> <p>近年、降雪期が早まっていることを鑑みまして、例年ですと12月1日に除雪対策本部を設置していたのですが、早い年ですと11月に降った雪が根雪になるという状況もありましたので、今年は先週の11月15日に除雪対策本部を立ち上げております。翌日の朝に降雪の予報があり、ロードヒーティングにも通電させていただくよう依頼し、除雪対策本部も早めに設置させていただきました。</p> <p>排雪の問題については、除雪を中心に行われてきましたので沿道に雪山が高く積まれていて、どんどん視界が悪くなる状況が多くの皆様から指摘をされておりました。排雪について改善していきたいと考えております。</p> <p>平成29年度においては、計画排雪量は34万㎡だったのですが、平成30年度におきましては50万㎡ということで、16万㎡増やすよう計画しております。29年度の計画排雪量は比較的降雪量が少なかった平成27年度をベースに算定されたものでしたが、今回は過去5年間の降雪量を踏まえて50万㎡が必要と判断しました。</p> <p>それから、主要交差点における見通しの確保についてですが、平成29年度は交差点付近の除雪を50か所の地点で実施していましたが、これを40か所増やし、平成30年度は90か所で交差点付近の見通しの確保をしていきたいと考えております。</p> <p>通学路の問題につきまして、小中学校周辺の通学路の排雪を3学期が始まるまでに実施していきたいと考えております。これは改善ではございません。従前、そのような形で細やかに実施していたものですので、元に戻すことになります。</p> <p>そしてもう一点は、庁内に雪の対策を行うための連絡会議を設置することになりまして、冬期間に月1回程度開催させていただきながら、関係部署と意見交換をすることになりますが、ここに教育委員会も入っていただき、御意見をいただきながら、市の除排雪に関する市の施策に反映させていきたいと思っております。</p>

<p>市 長</p>	<p>そういった点で、冬期間の児童・生徒の皆さんの通学路の安全確保を図っていきたいと考えております。この点について、教育委員の皆様から御意見があればお伺いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
<p>笹谷委員</p>	<p>今、29年度よりも除排雪がかなり改善されるというお話を伺いまして、安心しております。実は28年度の3学期の始業式に除排雪が間に合わない地区もありまして、総合教育会議の中でも話題にさせていただき、お願いをしたところだったのですが、それにもかかわらず昨年度も間に合わない地区があったり、小学校の低学年の身長・目の高さに合わせた雪山の高さにしてもらいたいという話もさせていただいたのですが、大人でも視界が悪い高さの雪山の状況で、交差点は本当に危険な状況でした。大きな事故もなく良かったです、起きてからでは遅いです。一度除排雪したからいいというわけではありませんし、降雪量にもよりますが、ある程度雪が降ったら除排雪していただきたいですし、3学期の始業式までには計画的に必ず間に合うようにしていただきたいと思います。</p> <p>それと、通学路の安全マップがそれぞれの現場で作られていますが、それは、排雪された状態での危険箇所を周知する安全マップです。昨年のような対向車がすれ違えず道路が蛇行した一車線になって、さらに大人でも視界が悪い雪山の高さになっていましたので、そのような状況になると「安全マップにどれだけの情報を掲載したらよいのか」ということになります。今、改善していただけるというお話をいただきましたけれども、ぜひよろしくをお願いします。</p>
<p>市 長</p>	<p>私もそのときは市長就任前だったのですが、議会をインターネットで見ましたが、そのときの市側の答弁を聞きますと、「排雪は、これ以上降ったら危険だ、と判断した時点で排雪作業を実施する」というような答弁でした。そうではなくて、早め早めにやるべきと私は考えておりましたので、この2年間、去年は最上線でバスが交差できなくなり、今年に入船中通線で交差できなくなるという状況になったわけですけど、危険だったから実施するというのではなく、危険になる前に早めに除排雪作業を実施していくという考え方で今年は臨んでいきたいと考えております。</p> <p>ただ、これで一気にいろんな問題が解決するとは考えておりませんので、まずはこの改善策で一年間実施させていただいて、その中でさらに改善しなければならぬこと、もちろん通学路の安全確保の面からもあると思いますので、それはそれで一年間実施させていただき、その上で、改善すべきところは改善していきたいと思います。</p> <p>他に御意見はございませんか？</p>
<p>小澤委員</p>	<p>排雪を一生懸命やっただけということで、大変喜んでおります。</p>

小澤委員	私もボランティアで子供の登校時に交差点で子供たちの安全を守るという活動をしております。そういう意味では市民レベルでもできること（ボランティア）はやっていますので、排雪などは市にぜひお願いしたいと思います。
市 長	ありがとうございます。その他に御意見はございませんか？
教 育 長	我々の反省点なのですが、昨年も学校と保護者から入ってくる情報を市には伝えていたつもりでした。そのパイプがうまくいっていませんでしたが、今回、連絡会議を立ち上げていただけたということですので、そちらを通じて、うまくいっていないところを聞いていただき、お願いをしていきたいと思えます。
市 長	連絡会議は、私が座長になりますので、教育委員会としてもしっかりと各学校の御意見を吸い上げていただいて、この会議でお話していただければと思います。
教 育 長	直接、雪対の本部長とお話することもあると思いますので、私の方からお願いすることもあると思いますが、よろしくお願いします。
市 長	<p>はい、それでは次の議題に進んでよろしいでしょうか？</p> <p>次は「学校の耐震化の促進」ということですが、先日、新聞にも出ていたけども、学校の耐震化がなかなか進んでいないということで、私どもとしても早く着手していかなければならない問題であると認識をしております。先般、10月31日に北海道教育委員会からも耐震化の促進について対応してほしいと要請をいただいたところです。</p> <p>学校の耐震化については、学校の適正配置やそれに関連した問題を待たせながらやってきたのですが、とりわけ学校の適正配置の考え方で申し上げますと、このたびの第3回定例会においても「市長として適正配置をどう考えるのか」という主旨の質問がありました。私としては、人口がどんどん減少している中で小樽のまちづくりをどう進めていくのかということと無関係ではないのだらうと思っております。国では、人口が減っていく地域社会の一つの例として、市内の中心部があって郊外に生活の拠点がいくつかあって、これをネットワークでつないでいくようなまちづくりが望ましいのではないかということが示されています。将来、そういうまちづくりを目指していくのであれば、学校の適正配置もそれに合わせた形で、将来のまちづくりを見通した上でやっていかないと、その都度その都度、統廃合を繰り返していくのはどうなのかという思いでおまして、まちづくりとの関係をこれからの適正配置を進める上で考えなければならないと思えます。</p>

<p>市長</p>	<p>近年の災害、先日の胆振東部の地震があつて全市的に停電になりましたが、学校が廃校になって避難所が減っていく、あるいは、学校開放によって使用できる体育館が減っていくということを学校開放で使用されている市民の皆様から御指摘いただくことがあります。地域の交流の場としての役割もあるわけです。</p> <p>今後、そのようなことも含めながら、この耐震化の問題、あるいは、適正化の配置の問題についても考えていきたいと思ひます。</p> <p>本日用意された資料にもあるように本市の小中学校の耐震化率は、現在、81.3%、2020年度には85.3%を目指すということになりますが、道、国の平均から見ると低い数字で、耐震化が遅れている状況です。今手掛けているのは幸小学校で、大規模改造、耐震補強の実施設計を教育委員会からいただいているので、計画的に進めていかなければならないだろうと考えております。</p> <p>学校の耐震化の促進について皆様から御意見があればお伺いしたいと思ひます。</p>
<p>荒田委員</p>	<p>今、幸小学校の耐震化については計画的に進めていくということでしたので、安心しましたが、小樽市の耐震化率が全国、全道と比較して低いということでしたので、ぜひ耐震化率を上げていっていただきたいと思ひました。</p> <p>先日の胆振東部地震の際に、市内の学校では大きな被害がありませんでしたが、子供たちが一日の多くの時間を過ごす学校ですので、耐震化の取組は非常に重要だろうと思ひます。小樽市においては、市長からも今お話がありましたが、学校の再編の進捗に合わせて耐震化を図っていくということで進めてきておりますけれど、資料の表にあるとおり、再編が未実施のため耐震化が進んでいない学校が残っている状態です。早急に学校の耐震化を進めていくことが必要で、この表に記載されている学校についても早い段階で調査をして必要な対応をしていくべきだと思ひます。再編ということ踏まえて耐震化を考えていくと、なかなか耐震化が進んでいかないかもしれないも考へてしまひますが、子供たちのために学校を安全な場所にする必要があると、早期の耐震化を進めていくために、再編と耐震化を分けて進めていくことも考へていく必要もあるのかなと思ひます。</p> <p>市長のお考へを伺いたいと思ひます。</p>
<p>市長</p>	<p>確かにおっしゃるとおりだと思ひます。今の再編計画に沿った形で耐震化を進めるということになりますと遅れる可能性が出てくるのは当然の御意見だと思ひます。やはり、児童・生徒の安全・安心を守っていくためには、その辺を計画的に進めていかなければなりませんので、この点は教育委員会としっかり協議をさせていただきながら実施させていただければなと思ひます。これか</p>

市 長	らの適正化計画の見通しを立てながら、ということは前提になりますけれど、時間がかかるようであれば別個に耐震化の手立てをしなければならないのではないかと考えております。
荒田委員	<p>教育委員として学校を訪問する機会があるのですが、老朽化と言いますか、なかなか厳しい環境の中で工夫しながらやっている学校を目にすることもありますので、ぜひ子供たちの安全・安心のために進めていっていただきたいと思います。</p> <p>それからもう一点。今後の人口減少の流れの中で、まちづくりを考えながら学校再編を考えていかなければならないというお話でした。今、再編計画の前期を終えて、これから後期へ入る段階ですが、当初の計画を立てた頃の出生数と現状の出生数、それから防災という観点で言いますと、10年前ですと東日本大震災の前ということもあり、近年、自然災害が増加傾向にあることもあり、これらを踏まえて、計画の修正を検討していかなければならないのかなと思います。</p> <p>今後の再編の進め方について、市長のお考えをお聞かせください。</p>
市 長	<p>今の適正化計画で言いますと、出生数が想定以上に落ちていっているということとの関連もあるのですが、統合校ができて望ましい学校規模にならないという現実的な問題もありますので、その点も考えていかなければならないと考えております。</p> <p>また、先ほども申し上げましたとおり、将来のまちづくりをどう考えていくかということとの関連を無視することはできないだろうと思います。将来的なまちづくりを考えた上で、これからの適正配置計画を考えていく必要があると思いますので、その2点を考え合わせながら、これからの適正配置計画について考えていかなければならないと考えております。</p> <p>望ましい規模にならないということがネックになりますね。</p>
荒田委員	<p>策定当時の10年前の状況と現在の状況で、望ましい規模というものが同じなのかどうか、ということをごどのように捉えていくべきかは私も簡単には言えませんが、教育委員会としては子供たちにより良い学習環境を提供するということが最優先にしていかなければならないと思いますので、子供たちの環境と現在の社会情勢、災害や少子化の進行の中でどうしていくのかということをごこれからも市長と意見交換をさせていただきながら考えたいと思います。</p>
市 長	<p>跡利用は私たち市長部局側が考えるのですが、適正配置を進めていって市内にあちらこちら廃校ができて、跡利用がなかなか進まない中で統合計画だけをどんどん進めていって廃校だけを市内に増やしていくということを考えると、</p>

市 長	<p>避難所がなくなるという問題がありますし、郊外の地域コミュニティの核となる施設がなくなってしまうことも考えられますし、学校開放の面でも使いづらくなって体育館の取り合いになっているという声も聴いております。そういう事も含めて総合的に学校の在り方を考えていかなければなりません。</p>
教 育 長	<p>荒田委員のお話の前段の部分、耐震化の部分ですけれども、私たちの再編計画が休眠状態になっている地域がありながらも現実の問題としてこれまで取り組んできたのですが、状況は厳しいものがあります。</p> <p>実際に子供たちがそういう学校に通っているわけで、耐震化ができていない状況の中でいつまでそういう校舎に通学させるのかという問題があり、避難所の機能もあるものですから、例えば大規模改修をしていくのが理想ですけれども、最低限、耐震化だけでも計画的に実施することを検討しなければならないのかなと思います。何とか子供たちだけでも安全なところで学習する場を整備するというを進めていく必要があるのではないかと考えております。</p> <p>胆振東部地震があった安平町早来地区などでは仮設校舎を一生懸命に建設していますが、先日、校長先生のインタビューが出ていましたけれども、結果的には子供たちがいないときで良かったという話をしていました。そういうこともありますので、少し切り離して考えて進めていければと思っております。財政が厳しい中で費用がかかる問題ですが、念頭に置いていただければと思います。</p>
市 長	<p>今の少子化を踏まえて適正化計画を考え、時間がかかるようであれば、耐震化については適正化計画と切り離して検討することは必要になってくるのではないかと思います。</p>
教 育 長	<p>再編も私たちがしっかり検討していかなければならない問題ですが、今後、市長のお考えもありますので、十分協議をさせていただきながら進めていければと思います。私たちは、子供たちの教育環境を整える必要がありますし、国の施策も人口減少社会の中で少しずつ変わりつつある施策もあるので、そういうものも視野に入れながら進めていければと思っております。</p>
市 長	<p>市長部局側がまちづくりが前提と言いながらも、大前提は子供たちの教育環境の改善が第一だということは私たちも認識しておりますし、それを踏まえた上でまちづくりとの関係を考えていかなければならないと思います。</p> <p>道教委からも要請を受けておりますので、市教育委員会としっかりと協議しながら、耐震化に向けて取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>続きまして、項目が変わりますけれども、「学習環境の向上について」ということですが、私が教育部長の時代に大型テレビや実物投影機などいろいろ予算</p>

市 長	<p>化させていただきました。現状では、ICTについて、教育委員会の中でどの程度進んでいるのですか？今後のプランなどがあれば、説明をお願いします。</p>
施設管理課長	<p>ICTの現状について御説明させていただきます。</p> <p>ICT機器の主なものとして、実物投影機、大型テレビ、児童・生徒が使用する学習者用コンピュータなどが挙げられますが、実物投影機につきましては小学校の普通教室で2017年度までに整備が完了しております。</p> <p>続いて、大型テレビです。教室には黒板があるように、大型テレビは主にモニターの役割として教室に必要なものの一つとなっております。小学校の普通教室の整備は既に終わっておりまして、今年度は中学校1年生の普通教室の大型テレビの整備が終わったところです。</p> <p>続いて、児童・生徒が使用する学習者用コンピュータです。これは児童・生徒が授業で使用するパソコンです。文部科学省の基準では、各クラスで1日に1コマ分程度、1人1台のパソコンを活用した授業ができるようにとの観点から3クラスに1クラス分程度のパソコンの整備が必要な基準とされています。本市では、3クラスに1クラス分程度を満たす台数を試算しますと約2,400台のパソコンの整備が必要となりますが、現状では753台のデスクトップ・パソコンを整備しているという状況です。</p> <p>現状の説明は以上です。</p>
市 長	<p>2,400台必要であるのに対して、現在、753台しか整備されていないということですよね。まだまだ足りませんね。2019年度以降は資料のとおり計画的に整備させていただきたいと思います。これから予算編成作業に入ってまいりますけど、小樽市全体の予算を見なければなりません、できるだけこのように進めさせていただければと思います。</p> <p>このICT環境の整備について御意見・御要望はございますか？</p>
常見委員	<p>大型テレビと実物投影機については順調に整備していただいて、先ほどの説明のとおり、大型テレビは小学校は全部ですが、中学校はまだ1学年だけという状況にあります。</p> <p>五感をフルに使って授業を行うことで興味がわいたり、分かりやすくなったりすることは証明されていることです。ぜひそれを進めていきたいと思いますが、小学校では2020年度から、中学校では2021年度からプログラミング教育が必修になります。その中で特に大事なものは、小学校においては「児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の情報手段の基本的な操作を学ぶ」、そして、「プログラミングを体験しながら意図した処理を行わせるために必要な論理的思考を身に付ける」という目標があって、中学校においてはさらにそれを「双方向性があるネットワークを利用したコンテンツのプログラミン</p>

<p>常見委員</p>	<p>グについて学習していく」、「情報セキュリティ」もそこに含まれると思うのですが、そういったものを実施していくということになりますと、やはり、現状は児童・生徒がそれを十分に行う環境であるかということも今も相当厳しい状況です。</p> <p>実際にデスクトップ・パソコンは753台あるのですが、およそですけども4人に1人でそれを1コマの授業で使うということになりますと、誰かが代表で使うか、交代で操作していくということになると、技術の習得を含めてなかなか十分に行えないということが出てくる可能性があります。さらに困ったことには、今現存するパソコンもそうなのですが、ソフトの更新時期を迎えているということがあって、そうすると早急に対応していかなければならないということになると思います。</p> <p>施策では3クラスに1クラス分程度の整備となっているのですが、授業のときにまず1人1台のコンピュータを手元に置いて操作できるような環境が1コマ分確保できるとかなり違うのではないかと考えますので、まずは各校1クラス分の授業で1人1台のコンピュータを使えるような環境を作るというのが一番大きな改善となると思います。そうなりますと、30校あって1クラス分というと40台として1,200台のコンピュータをまずは確保したいと考えますので、その点をお願いしたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>現状で授業中に1人1台あたっていないということですか？</p>
<p>常見委員</p>	<p>はい。</p>
<p>教育長</p>	<p>今の整備状況はどういう基準でやっているか説明をお願いします。</p>
<p>施設管理課長</p>	<p>現在は、基本的に小学校ですと1校当たり10台、中学校ですと1校当たり34台が整備されています。</p>
<p>市長</p>	<p>例えば、小学校が1クラス35人いるとすると、25台足りないということですよ。</p>
<p>教育長</p>	<p>購入した形なので、その時の予算の事情もあったのでしょうけど、再来年から「新小学校学習指導要領」が始まりますので、その時までには整備していきたいです。</p>
<p>市長</p>	<p>来年度に整備しないと、その翌年度から対応できないということですね。</p>

教 育 長	<p>小学校についてはそうですね。中学校の「新学習指導要領」はその次の年度です。ですから、授業が始まりますというときに、4人で1台を使用するというになってしまいますので、最低限の整備はしていただきたいというのが教育委員会の要望です。</p>
市 長	<p>今後、予算編成の中で議論させていただきたいと思います。事情は分かりました。</p> <p>中学校のプログラミング教育はどの教科の先生が担当するのですか？</p>
教 育 長	<p>技術家庭科の先生です。</p>
市 長	<p>技術家庭科の先生は必要な人数がいるのですか？</p>
教 育 長	<p>現時点では、各教科で取り組むという話もあります。</p>
市 長	<p>小学校なら担任の先生がやらなければならないわけですよね。</p>
教 育 長	<p>先生方の負担は結構大きいですね。</p>
常見委員	<p>結果的には各教科横断的という話になっています。</p>
市 長	<p>中学校は技術家庭科の先生がやらなければならないのですね。</p>
常見委員	<p>そうですね、技術家庭科の先生を中心ということです。</p>
学校教育支援室長	<p>「新学習指導要領」では、小学校でプログラミング教育を行うことになったということが一番の目玉となっています。その中で小学校の担任の先生が各教科でも教えますし、いろいろな活動の中で子供たちに実際に一人一人にプログラミングソフトを使ったりしながらその仕組みを教えたり、内容について指導するということになります。</p> <p>中学校は技術家庭科の先生が主にその授業時間の中で指導していきます。小学校で指導されてきた力を伸ばすということになっております。</p>
教 育 長	<p>小学校の先生は大変なのです。</p>
市 長	<p>そうですね、英語も教えなければなりませんし。</p>
教 育 長	<p>はい。高校は「情報」という免許を持っている先生が担う形になっています。</p>

市 長	その先生方のお話はこの辺にしたいと思いますが、他に何かございますか？
常見委員	コンピュータも必要なのですが、モノがあればいいかというところではなく、学習用のツールを使ってみたり、サーバー環境のこと、無線LANの環境整備を進めるのは現状では無理だと思いますので、最低限でも1か所の有線LANを整備していくことも必要だと思います。そうすると、コンピュータだけではなく、周辺の環境も整備していかなければなりませんので、ぜひその点もお願いしたいと思います。
教育長	国は膨大な計画を持っていますので、そこに合わせていくのは苦しいのですけども。
市 長	国の財政措置はどうなっているのでしょうか？
教育部長	交付税です。
教育長	交付税措置で毎年本市にどれだけ入ってきているかは正確には言えないのですが、国全体では毎年1,800億円程度用意していて、5か年計画で実施しているので、国の説明会では「このように用意しているので対応してください」という話を受けてくるのですが、なかなか財政の状況を考えると、一度に対応・整備するというのは当然難しいわけです。子供たちに最低限教育していく部分には何とか整備していただきたいところです。
市 長	私の方から聞きたいことがあるのですが、資料の欄外にある「教員の働き方改革として『統合型校務支援システム』導入」というのは、これはまた別のメニューが交付税とは別にあるということですか？
教育部長	使用していたOSがウィンドウズ7で来年度の夏休みに更新する機会があって、動かすソフトがこの「統合型校務支援システム」であり全道的に使われているシステムで、それを導入するとすれば単年度で約1,200万円かかるというものです。
市 長	補助金ではなく、システムを導入するとすれば、ということですね。
教育長	校務支援システムを導入して、これも働き方改革なのですが、教員の負担軽減にもつながるというデータも出ています。教員は県費負担教職員で、道立

<p>教育長</p>	<p>学校は全道一円で動くということもあって、同じシステムを使えるようにできないかということが最初の考え方なのです。</p> <p>当然、小樽の教員が倶知安へ赴任したり、あるいは、倶知安の教員が余市に赴任したりしますので、どこの学校に行っても同じシステムでやれば、その学校によって集計方法が違うなどのようなことがなく、統一した業務の進め方ができます。</p> <p>データを1回入力したら、転校などの対応や学級編成などが機械のできるもので、道からはぜひ協力してほしいと要請があり、管内でも何町村かは既に導入しているのですが、そこでやってきた教職員が小樽に赴任すると校務支援システムがないので、「導入してほしい」という先生もいます。</p>
<p>市長</p>	<p>そうですね。今いただいた話は十分参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>では、本日の時間も限られていますので、先に進めさせていただきます。</p> <p>続きまして、「キャリア教育の推進」について進めさせていただきます。</p> <p>これは私からのお願いですが、小樽市の人口構造を考えますと、若い働く世代の方々の人口流出がとて多く、それは少子化につながっている面は否定できません。先ほどの適正配置計画の話題の際に言い漏らしてしまいましたが、計画より2,000人ずつ程度人口が減少しています。こういったことを考えると、いかにその地域に若い世代が残って、なおかつ、安全で安心して生活できるということを考えていかなければなりません。</p> <p>雇用の面については、産業施策の中で考えていかなければなりませんけれども、子供たちに小樽に愛着を持ってもらう、小樽をもっとよく知ってもらうことも大切なことだと思います。その一環のふるさと教育として、教育委員会の御協力をいただきまして、全小中学校の児童・生徒さんたちが潮まつりに参加しています。あるいは、高島越後踊りや向井流水法、松前神楽の伝統芸能の伝承に御協力いただいているという認識はしているのですが、小樽の産業などについても知っていただくことも、とても大事であろうと思います。</p> <p>私はどちらかというと経済分野が長く、中小企業の皆さんといろいろお付き合いをさせていただいているのですが、小樽の場合、中小企業が経済や雇用を支えているのですが、中小企業であっても高い技術力がある、あるいは、世界のマーケットとつながっているというユニークな企業もいくつかあって、子供たちにも「小樽の企業ってスゴいんだぞ！」って知ってもらうことも大切だと思います。</p> <p>経済教育ということで、「働く」ということの勉強の他に、小樽の「企業」といいますか、小樽の「産業」といいますか、このようなことも一緒に学んでもらえれば、少しは子供たちが「小樽って結構スゴいんだな！」と思ってもらえれば、これが全てではないのですが、小樽に定着してもらうきっかけになるのかなと思います。人口対策の一環としての「経済教育」と私は考えている</p>

<p>市 長</p>	<p>のですが、少なからず過去の取組の中で実施されているとは思いますが、現状をどう思っているのかお聞きしたいです。過去にも取り組んでいますよね。</p>
<p>学校教育支援室長</p>	<p>キャリア教育は、小樽ということで考えていくと、ふるさと教育と密接につながっていきます。教育委員会としては、キャリア教育の推進事業として、今、西陵中学校と稲穂小学校を中心に職場体験や職場見学、中学校においてはそれを修学旅行先で実施したりと、指定校として事業を進めています。</p> <p>それをキャリア教育研修講座ということで、各学校の先生方に集まっていただき、講座の中で広めて多くの方に知ってもらおうという活動をしています。</p> <p>また、来年の初めにキャリア教育推進会議を開催したいと考えております。市内の小中学校、高校、商工会議所さん、青年会議所さん、様々な行政機関が一堂に会して情報交換をするという会議を設けられればと教育委員会としては考えております。</p> <p>今市長がおっしゃったように各学校においては、地域の企業であったり、商店街であったり、商工会議所さんから御支援いただいた「食育」や漁協さんに学校に来ていただいて出前授業をしてもらったりなど、各学校の取組としてはいろいろ行っているところです。</p>
<p>市 長</p>	<p>これをやるということは先生方の負担も少し増えるのかなと思うのですが、やはり、こういったことを地道にやっていくということが人口対策上も必要だと思います。</p> <p>委員の皆様方はこれについてお考え等ございましたら、お願いします。</p>
<p>荒田委員</p>	<p>これから市内関連団体の方にお集まりいただいてキャリア教育推進会議が始まるわけですが、これまで小樽市全体の取組というのは、ふるさと教育や体験型のイベントを市内のボランティアの方や経済界の方がやっていたりと、それぞれ個別にはあるのしょうけれども、恐らく、市内全体の方々が集まるという会議はなかなかなかったのではないかと思います。</p> <p>情報交換をして連携を強めていく、顔を知っているだけでもいろんな話ができたり、つなげたりできると思いますので、ぜひ進めていただきたいと思います。</p>
<p>市 長</p>	<p>もちろん関係機関もそうですし、経済団体などの御協力も必要でしょうから、私からもこのキャリア教育推進会議を発足させるに当たり、協力を経済界に要請したいと思います。</p>

<p>教育長</p>	<p>前から開催してみたいと考えておりました、構想を練っていたのですが、皆さんを集めるとなるとなかなかの大仕事になるので、ようやく来年の頭くらいには何とか進められたらと思っております。</p> <p>それと、小中学校の連携はやってきたので、今度はこれまでつながりのなかった高校とも連携をしたいと考えています。高校を卒業して地元就職していく、地元の産業に関わっていくとなりますと、小学校から系統立てて、成長に合わせてキャリア教育を進めていく必要があるだろうと思います。</p> <p>高校生のインターンシップについても市と市教委が協力していくというシステムを作っていくことができれば、市としての取組ができるのかなと思います。今後進めていく上で必要だろうと思います。それと小中学校それぞれで格差があるものですから、その辺りを一定程度、例えば「小学校高学年のこの段階まではやっていこう」とか、「中学生の段階ではここまでやっていこう」など、指針のようなものを作れたらいいなと思います。</p> <p>その中で産業界に協力していただいているような取組をサポートしていただければ、また、そういう環境ができれば違ってくるでしょう。</p> <p>小樽未来創造高校ができて、「産業界とのパイプがなかなか難しいので御紹介いただけないでしょうか？」という話もありまして、これはやはり、いろいろな関係者が集まって情報を共有していく必要があるでしょうし、進め方もいろいろとやっていく必要があるだろうと考えています。</p>
<p>市長</p>	<p>市内を見ましても、各分野で人が足りない、人手が確保できないと聞きますから、行政としてキャリア教育を進めていって子供たちに小樽の産業や経済を知ってもらうということに経済界の方々も皆さん協力していただけると思います。ですから、私もいろんな形で経済界の皆さんには働きかけて、ぜひ協力をお願いしていきたいと思えます。</p> <p>これは今年度中に立ち上げるのですか？</p>
<p>学校教育支援室長</p>	<p>今年度中には立ち上げたいと思えます。</p>
<p>市長</p>	<p>わかりました。よろしく申し上げます。</p> <p>では、次に進めさせていただきます。</p> <p>「教員の負担軽減」についてですが、小樽の実態がどうかということを知って項目に挙げさせていただいた訳ではございません。先生方も相当いろんなことをしなければならない、時間が足りないという中で、非常に長い時間を拘束されているというような話をしばしば報道などで耳にしています。</p> <p>教室の中のことに我々はなかなか関わることはできませんけれども、例えば、それ以外でスクールカウンセラーの配置ですとか、学校図書館司書を増員</p>

<p>市長</p>	<p>するとか、側面的な支援をこれまでさせていただきましたし、今後もそういった視点で考えていかなければならないと思います。</p> <p>一方で、中学校の部活動の問題があって、部活動でも拘束されて土日も休みなしという状況で、一定程度部活動に対する制限などの方向性が打ち出されているのですが、一つは小樽市の実態がどうかということと、もう一つ、行政としてどんなことができるのかということを議論いただきたいと考えております。</p> <p>資料の説明をお願いできますか？</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>「小樽市立学校における働き方改革行動計画」の説明をいたします。本年7月に策定したものです。これについては、学校をめぐる環境の複雑化や多様化によりまして教員に様々な対応が求められていることから、教員の長時間労働というものがクローズアップされている中で、今年9月、文科省が教職員の時間外勤務の実態調査を行いまして、その中で、いわゆる過労死ラインと呼ばれる週60時間以上時間外勤務をしている教員の割合が、小学校で23.4%、中学校で46.9%であったということでした。中学校においては過労死ラインを超えている先生が約半数いるというショッキングな報道がなされたところでした。</p> <p>これを受けて国では、「学校における働き方改革に関する緊急対策」というものがまとめられ、また、北海道教育委員会では平成30年3月に「北海道アクション・プラン」が公表され、ここで業務の改善の方向性が示されました。</p> <p>各市町村の教育委員会においても、これに基づいて計画的な取組をせよということで、「働き方改革の行動計画」を定めました。</p> <p>資料の1ページ目の大きな項目4番目に「行動計画の目標及び指標」とありますが、今申し上げました「1週間当たりの勤務時間60時間を越える教職員をゼロにする」ということを目標に掲げております。</p> <p>2ページ目の上には四つの指標を定めておりますが、大きな項目5番目の具体的な取組としましては、同じく2ページ目の(1)から(4)まで掲げております。</p> <p>(1)は「本来担うべき業務に専念できる環境の整備」ということで、スクールカウンセラーなどのスタッフの充実です。この中に部活動体制の補助、部活動指導員の配置を検討するということを掲げております。もう一つが、先ほどICTのときに話題が出ましたが、校務支援システムを導入して先生の負担を軽減させるよう検討しているところです。</p> <p>(2)は「部活動に係る負担の軽減」ということで、先ほども話がありましたが、部活動については、全国的な傾向として、10年前の調査とそれから10年後の調査を比較しますと、中学校で部活動の時間が1時間ほど長くなっているということと、中学校の運動部の担当教員ですが、もともと保健体育の資</p>

<p>教育総務課長</p>	<p>格を持っていなくても運動部の部活動についていたり、全く競技経験がなく、その部活動についているという先生の割合が45.9%で、約半数の先生が未経験のまま部活動を指導しているという実態が先生方の大きな負担の大きな要因であると示されている中で、部活動の指導員の制度化が29年4月1日にあり、30年度から補助事業として実施されております。国が3分の1、道が3分の1、市が3分の1、現在、新年度導入に向けて検討しているところでです。</p> <p>3ページ目の(3)「勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実」についてですが、主だったもので言いますと、「学校閉庁日の設定」ということで、この間は部活動も休止するというようなことを掲げています。</p> <p>4ページ目の(4)「教育委員会による学校サポート体制の充実」ですが、市教委が行う調査を厳選して先生の負担を軽減しようというものと、勤務時間に関する制度ですが、変形労働時間制などがありますので、これを周知することによって負担軽減を図ろうと、以上、大きく四つに分けた具体的な取組を挙げています。</p> <p>一番最後の5ページ目ですが、年度計画表を載せています。この計画自体は平成30年度から平成32年度までの3年間実施するということとなりますが、部活動における外部コーチの活用や校務支援システムの活用について平成30年度中に検討するというところで、国の制度の活用を今探っているところでです。</p> <p>以上です。</p>
<p>小澤委員</p>	<p>小樽市の実態について、私は数字的に把握できてはいないのですが、印象として、やるべきことがたくさんあってどうしたらいいかわからないという状況で、先生たちが忙しいということを知ることが多いです。平成29年の道の調査によると、過労死ラインの週60時間以上勤務の副校長、教頭、小樽の場合は教頭先生ですが、小学校70.8%、中学校72.7%。教員になると、小学校が23%、中学校46%という道の調査結果が出ています。ですから、小樽も似た状態なのではないかと類推しながら、先生方の話を聞かせてもらっています。私の小中学校勤務経験から、中学校の数字が高いのは、恐らく、部活動の占める割合が多いからだろうと思います。その点では部活動の指導を先生方以外の外部コーチを導入することを検討していかないと、今後、部活動はやっていけないのではないかと思います。</p> <p>特に子供たちに人気の部活動をどう指導していくかという点で課題になるのではないかと考えていました。</p> <p>私の持っているデータでは、現在でもボランティアの形で市内10人の外部コーチが入っています。その10人というのは、その学校で行われている部活動に携わっているのが10人で、その他に部活動として校外で外部コーチに指</p>

<p>小澤委員</p>	<p>導を受けている、スキーや水泳、柔道など、学校には部活動がなくとも部活動とみなしているものもあり、そこにはもっと多くの指導者が入っています。そのように運営されていますので、子供たちが楽しさを味わいながら学校生活を送る面で、新しい制度によって外部コーチの方の予算措置もされるようなので、ぜひ検討していただきたい。</p> <p>また、話は変わりますが、「最近、学校が変わったな」と思うのは図書館です。以前は、図書室は古い本が並んでいたのですが、子供たちが手に取りたいと思う本が今は多くなりました。</p> <p>例えば、以前は絵本も立てて置いたのですが、絵本は薄いので題名が見えないのです。今はそれを机の上に広げて置いているので、そうすると、子供たちが来て面白そうだと手に取ってくれます。それから、5年ほど前になりますが、ある小学校へ行きましたら、壁に身長を測るメジャーがついていました。何故かと尋ねると、その学校では、保護者の方が図書室を整理してくれたときに「こういうものがあるといいですね。」と作ってくれたそうです。子供がそこに来ると自分で身長を測って楽しんでいるそうです。</p> <p>図書室というのは、私どもの感覚では本を静かに読むところというものでしたが、今は、図書室は子供が本に触れながら楽しむところという認識も増えているようです。</p> <p>その点で、なぜ変わったかというところを聴いてみますと、学校司書の方が非常にいろいろなノウハウを持っていて、そういう改善をしていただいて、学校の教員も読書に関心を持っている方がいるので、(学校司書が)「こういう風にするといいですよ。」という相談をすると、その先生方も一緒にやってくれます。そういう状況ですので、今後、学校司書の配置も御検討いただければと思います。</p> <p>最終的に、働き方改革というのは、教員の勤務時間を短縮するというものではなくて、これをするによって、先生方の家庭と仕事のバランスを取って充実した生活を送ることができるようになるということです。その結果、子供たちに還元されます。(例えば、先生に心のゆとりがあると)悩みがある子供に先生が気付いたりして、広い意味で子供たちの学ぶ力に必ず結びついてくると思います。そういう点で、学校に学校以外の専門性を持った方を入れていくのがこれから大事なので、考慮いただきたいです。</p>
<p>市長</p>	<p>そうですね。やはり気持ちに余裕がないといけませんよね。先生方の配置について、私たちが関われるわけではありませんが、学校司書の問題ですとか、カウンセラーの問題ですとか、外部コーチの問題ですとか、側面での支援ですね。先生方もやらなければならないことが多くなっているほか、家庭との関係をしっかり作っていかなければならない中で、本当に多忙を極めていると思います。そこはそこで先生方に頑張っていただかなければなりません、それ以</p>

<p>市 長</p>	<p>外の部分で何とか。まだ検討することも残っていますが、この件についてはしっかりと対応させていただきたいと思います。このままいくと、先生のなり手も減っていきますよね。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>今年、小学校の教員採用試験の倍率が結果として1.2倍だったそうです。これは危機的な状況で、1.2倍で止まるならいいのですが。北海道でも危機感を持って採用方法をいろいろと考えているのですが、働き方改革などの話も出てきますし、今は経済情勢もよく人手不足の中で、学生たちが条件のいいところへ行く傾向があります。これにサイクルがあって繰り返されるもので、今後このままの状態かはわかりませんが、道教委の施策の中でいろいろやってくれてはいます。かつて一度勤めていた方ですとか、外部人材で放課後の学習指導や語学などをやっていましたが、それだけではなくて、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーなども道の支援を受けて配置をしておりますけれど、学校再編に合わせて市単独でもやらせていただいております。そういう意味で、そのようなところも充実させていかないと教員の負担軽減が実現しません。子供たちも保護者も困っている人はたくさんいて、結構、教育委員会に相談に来ています。補助金でそういうことができる制度があれば、最大限に活用しながら実施したいと思います。</p>
<p>市 長</p>	<p>そういった意味で私たちも何とか負担軽減を後押ししたいと思います。この問題について他に御意見等はございますでしょうか？</p> <p>特にないようですので、そろそろ時間でもありますし、なければこの話題についてはこれで区切りをつけまして、「その他」に移りたいと思います。</p> <p>私からお話したいのですが、総合教育会議を立ち上げたときに教育大綱を御審議いただいたのですが、教育大綱は小樽市の総合計画の教育に関する部分を抜粋して、それを教育大綱といたしました。現在、総合計画を改訂中でして、今度の12月の議会で基本構想が審議されます。要は、総合計画が変わります。そうなりますと、教育大綱もそれに合わせて変わることになりますので、来年の総合教育会議については、この時期ではなくて、もう少し前に開催をさせていただいて、その教育大綱についても御審議いただかなければなりません。そういう状況ですので、あらかじめ御承知おきいただければと思います。</p> <p>それでは最後に教育長から何かございますか？</p>
<p>教 育 長</p>	<p>今日は市長が代わられて初めて市長のお考えをお聞きしました。市長も以前は教育部長でおられて、教育ジャンルについていろいろ承知いただいているので、非常に話しやすく、ついお願いし過ぎた部分もあろうかと思いますが、教育部長時代から学習指導要領やICTなどが進展ってきて、子供たちが卒業していき、就職する頃には無くなる職業も出てくるようですが、そういう中で時</p>

<p>教育長</p>	<p>代の変化が非常に激しい時代ですので、教育施策も次から次へと矢継ぎ早に出てくるというのが現実です。そういう中であって費用がかかることばかり市長にお願いさせていただいたわけですが、いつも決算特別委員会で毎年言われているのですけれども、市の全体予算の中で教育費の占める割合が他のまちに比べて非常に低いというお叱りを受けます。そういう中で道内の都市がだいたい10%弱、10万都市になると10%超という状況です。大きいのは、これは当然ながら、改築などの施設整備をどれだけやるかということで、一概には言えないのですが、唯一言えるのは、小樽はいつも低位置にいるということは現実としてあります。予算についてはいつもお叱りを受けますが、私たちも少しでも子供たちの教育環境を高めていきたいという気持ちがあります。そういう意味で、財政が厳しい状況にあることは承知をしております、収支の改善プランを作るというお話も聴いておりますので大変厳しいなと思っておりますけれども、将来の投資ということも含めて子供たちに関する予算について御配慮いただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>本日はありがとうございました。大変貴重な御意見をいただいたと思っております。教育長からもお話ありましたけれど、子供たちの教育環境改善という主旨を踏まえながら、年が明けたら本格的に予算議論になってまいります、しっかりと教育部局と協議していきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p> <p>本日はお忙しい中ありがとうございました。以上で総合教育会議を終わりたいと思っております。</p>